

第5回 幼・保・小合同研修会

日時 令和4年11月21日(月) 午後3時～午後4時40分
場所 ニコニコこども館 3階 会議室

教育講演

「特別に配慮を要する子どもへの支援の在り方」
～小学校教育へのスムーズな移行に向けて～

実践女子大学 生活科学部

教授 塩川 宏郷 氏



講師の塩川先生は福島県西郷村出身で自治医科大学を卒業され、現在は実践女子大学で健康科学概論、精神疾患とその治療等について教鞭を執っておられます。また、自閉症や注意欠如多動症など発達障がいのある子どもの早期診断や地域支援のありかたなどを地域医療的な視点から研究をされております。

今回は、特別に配慮を要する子どもが小学校への進学を迎えたときに、どのような点に留意し支援をしていけばよいのか、具体的な事例を提示しながら、ご指導をいただきました。

※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定こども園・

小学校関係者等 82名(内オンライン研修59名)



【講演の主な内容】

- 発達障害について
- 発達障害のある子への対応
- 支援者の心構え

「障害」の医学モデルと社会モデル

医学モデル	社会モデル
<ul style="list-style-type: none"> ・障害は「疾病」と同じ意味 ・障害には「原因」がある。 ・同じ障害は同じ原因から引き起こされる。 ・原因は「生物学的」である。 ・「治療」によって「原因を除去」することで障害を「治療」させることができる。 ・治療がゴールである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害は「状態像」 ・障害を個人の要因と社会要因および関係性の中でとらえる。 ・個性が強いので原因を特定することには重きをおかない。 ・「支援」によって障害状態は改善することができる。 ・障害状態を改善し、<u>社会適応レベルを改善</u>することをめざす。

社会モデル→「支援」によって障がい状態は改善することができる。

■対応・言葉かけの基本姿勢

- ・悪くなるような対応をしない(臨機応変)
- ・現状維持がまず最大の目標
- ・うまくいった対応だけ続ける(試行錯誤)
- ・失敗は、「再発防止策」を講じるチャンス(ネバーギブアップ)
- ・試されているのは、われわれの「柔軟性」や「創造性」

■環境調整

- ・不適応や生きづらさは「特性」と「環境」との相互作用で発生している。
- ・特性を変えるよりも環境を調整することのほうが簡単。
- ・私たちも環境の一員
→私たちの行動を変えることが環境調整になる。

【アンケートから～参加者の声～】

- 幼稚園は集団の場ですが、一人ひとりの個人を尊重して関わることの大切さを感じました。また、子どもたちの様子や特性を入学先の学校と共有し連携していけたらと思います。(幼稚園：女性)
- 日頃悩んでいることの参考になりました。自分の保育を振り返り反省・・・また明日から頑張りたいと思います。「ネバーギブアップ！」(保育所：女性)